



岐阜県感染症発生動向調査週報

Gifu Infectious Diseases Weekly Report

平成 29 年 12 月 15 日 岐阜県感染症情報センター（岐阜県保健環境研究所）

2017 年第 49 週
(12/4~12/10)
11 月報合併号

- インフルエンザは前週より少し増加し、飛騨保健所管内で患者の報告が多くなっています。
- 咽頭結膜熱は、2 週続けて患者報告数の多い状態となっています。
- 感染性胃腸炎は、岐阜保健所管内で多数の患者が報告されています。
- 水痘、手足口病は、恵那保健所管内で患者の報告が多くなっています。
- 梅毒患者の増加が続いています。→トピックス

■ 定点把握対象疾患の発生動向（インフルエンザ 定点:87 か所、小児科定点:53 か所、眼科定点:11 か所、基幹定点:5 か所）

● 警報・注意報レベルの保健所がある疾患

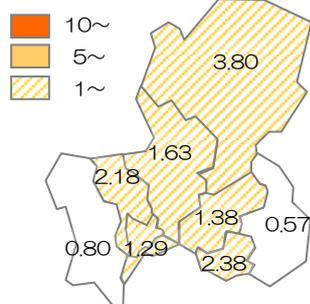
レベル	疾患名	基準	該当保健所（定点当たり報告数）
警報レベル	なし		—
注意報レベル	なし		—

※定点当たり報告数が一定の基準を超えた場合、保健所単位で「警報・注意報レベル」を発信しています。

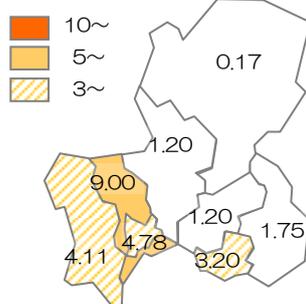
警報レベルは大きな流行が発生または継続していると疑われることを、注意報レベルは流行の発生前であれば今後 4 週間以内に大きな流行が発生する可能性が高いこと、流行の発生後であれば流行が継続していると疑われることを指します。

● 注意したい感染症の保健所別流行状況（地図中の数値は定点当たり報告数）

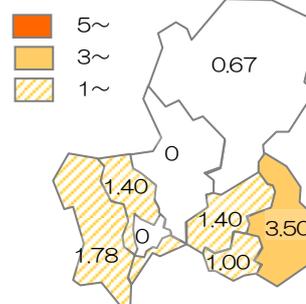
<インフルエンザ>



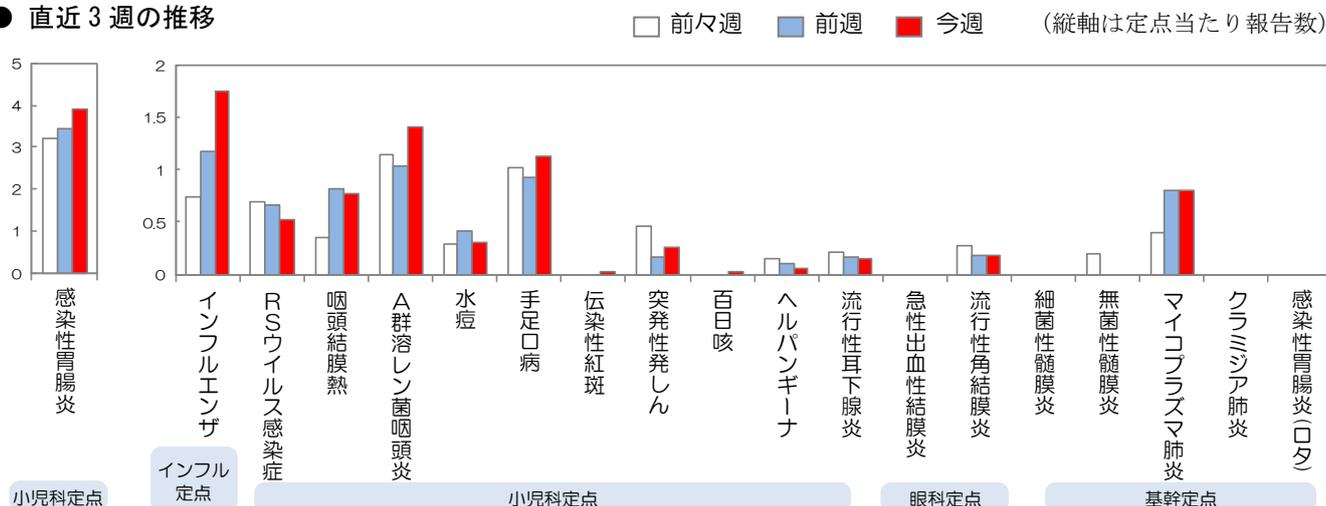
<感染性胃腸炎>



<手足口病>



● 直近 3 週の推移



■ 全数把握対象疾患の発生動向

● 今週届出分

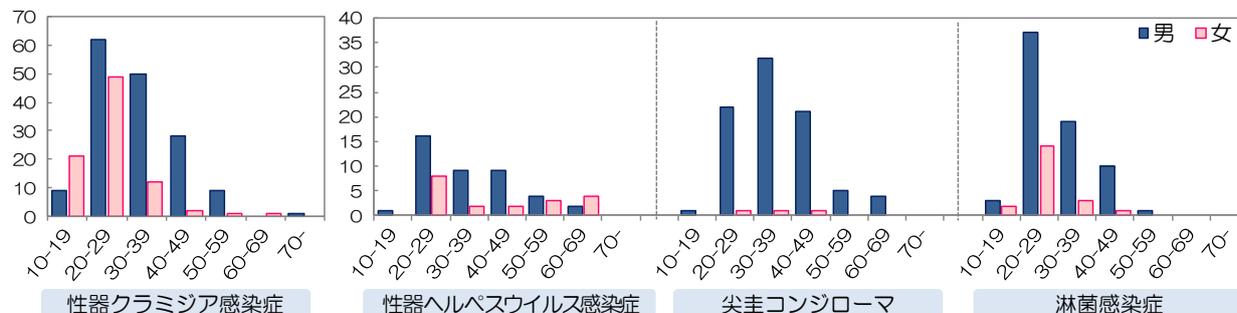
- 1 類感染症：なし
- 2 類感染症：結核 11 例
- 3 類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 1 例
- 4 類感染症：つつが虫病 1 例
- 5 類感染症：急性脳炎 1 例、梅毒 1 例

■ 月報告定点把握対象疾患の発生動向 <11月>

● 性感染症報告数（STD定点：15か所）

疾患名	11月	男			女		
		11月	10月	9月	11月	10月	9月
性器クラミジア感染症	25	19	13	17	6	8	6
性器ヘルペスウイルス感染症	9	5	4	2	4	-	1
尖圭コンジローマ	4	4	8	8	-	-	1
淋菌感染症	8	6	6	7	2	4	2

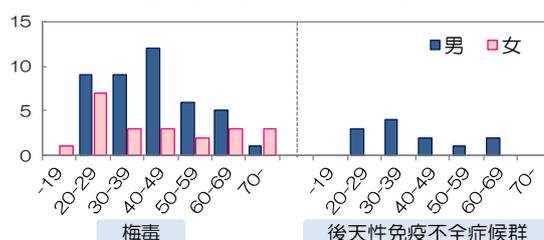
<性・年齢階級別報告数（2017年1～11月累計）>



（参考）全数把握対象の性感染症 報告数

疾患名	11月	10月	9月	1～11月	男	女
梅毒	7	6	4	64	42	22
後天性免疫不全症候群	2	-	1	12	12	-

性・年齢階級別報告数（1～11月）



● 薬剤耐性菌感染症報告数（基幹定点：5か所）

疾患名	11月	10月	9月	8月	7月	6月
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	19	8	18	13	16	13
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	9	2	3	3	1	1
薬剤耐性緑膿菌感染症	-	-	1	-	-	1

■ 病原体検出情報

● 医療機関から提出された検体の病原体検出状況（11月採取分、12月10日現在結果判明分）

臨床診断名	病原体名（遺伝子検出を含む）	検出数
インフルエンザ	インフルエンザウイルス AH3	2
	インフルエンザウイルス B型	1
RSウイルス感染症	RSウイルス	5
水痘	ライノウイルス	1
手足口病	ライノウイルス	2
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	<i>Streptococcus pyogenes</i> T1型	1
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T4型	2
	<i>Streptococcus pyogenes</i> T6型	1
	<i>Streptococcus pyogenes</i> TB3264型	2
感染性胃腸炎	ノロウイルス GII	1
	アデノウイルス 41型	1
腸管出血性大腸菌感染症	<i>Escherichia coli</i> O157:H7 VT1&2	2
	<i>Escherichia coli</i> O157:H- VT1&2	3
	<i>Escherichia coli</i> O26:HNT VT1	1
	<i>Escherichia coli</i> O111:HNT VT1&2	1

※病原体検出情報の詳細についてはHPをご覧ください（毎週更新）。

<http://www.pref.gifu.lg.jp/kodomo/kenko/kansensho/kansensyo/byougentai.html>

全国情報は国立感染症研究所感染症疫学センターのHPをご覧ください。

感染症発生動向調査週報（IDWR） <https://www.niid.go.jp/niid/ja/idwr.html>

病原微生物検出情報（IASR） <https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr.html>

■ トピックス

● 梅毒

◇ 梅毒患者の増加が続いています

ここ数年、全国的に梅毒の患者報告数が増加しており、この状況は現在も続いています。

2017年、全国の梅毒患者の報告数は第48週までで5,279人と、昨年を上回る数となっています。

岐阜県では、第49週までに65人の患者が報告されており、昨年の2倍に増加しています。

特にここ数年は、全国的に若い女性患者の増加が目立っており、県内でも同様の傾向がみられています。

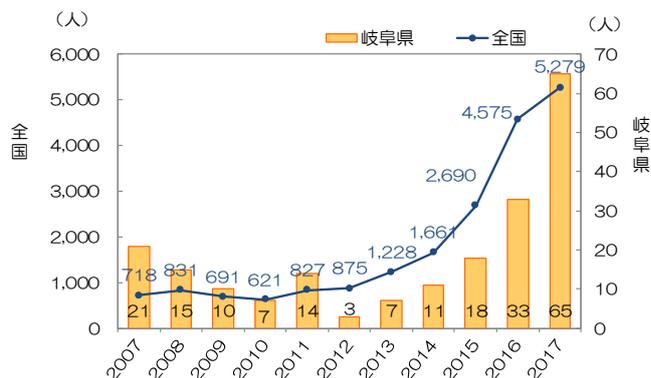
2016年～2017年（第49週まで）の直近約2年間に県内で報告された患者の性・年齢別内訳をみると、男性では20～40歳代がほぼ同じ割合であるのに対し、女性では20歳代が他の年代と比べて多くなっています。

また、病型別の内訳は、男性は早期顕症Ⅰ期、女性は早期顕症Ⅱ期と無症候が多くなっています。

若い女性の患者が増加していることから、先天梅毒の増加も懸念されているところです。全国で2016年には15例、2017年は第48週までに5例の先天梅毒患者が報告されています。

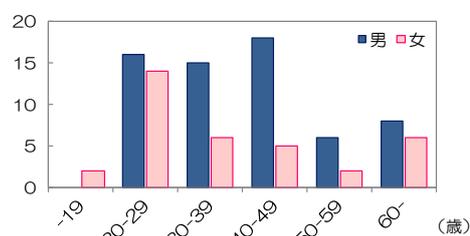
今後も注意深く動向を監視するとともに、感染予防と早期発見・早期治療のための啓発を行うことが重要となっています。

梅毒患者報告数



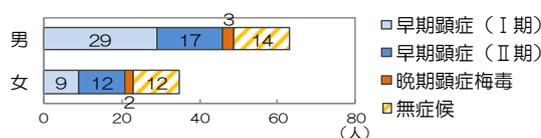
性・年齢別患者報告数

(岐阜県 2016年1週～2017年49週 n=98)



病型別内訳

(岐阜県 2016年1週～2017年49週 n=98)



○ 梅毒とは

梅毒トレポネーマの感染による性感染症です。3～6週間の潜伏期の後に、感染局所に初期硬結や硬性下疳がみられ（早期顕症梅毒（Ⅰ期））、3か月を経過すると、全身に皮疹や粘膜疹がみられるようになり、発熱、倦怠感などの他、泌尿器系、中枢神経系の多彩な症状を示すこともあります（早期顕症梅毒（Ⅱ期））。感染後3年以上を経過すると、ゴム腫、心血管症状、神経症状などがみられることがあります（晩期顕症梅毒）。各病期間に症状が消える無症候期があり、これが、診断・治療の遅れにつながる場合があります。また、感染した妊婦の胎盤を通じて胎児に感染した場合は、流産、死産、先天梅毒を生じる原因となります。

○ 感染症法における取扱い

梅毒は、感染症法において5類感染症全数把握対象疾患に定められており、診断した医師は保健所に届け出なければなりません。

届出基準・届出様式はこちらをご覧ください。（保健医療課 HP）

<http://www.pref.gifu.lg.jp/kodomo/kenko/kansensho/11223/kansenshouhou-ki.jun.html>

岐阜県感染症情報センターHP

<http://www.pref.gifu.lg.jp/kodomo/kenko/kansensho/kansensyo/>